

第7章 関連文化財群の設定

1. 関連文化財群の設定

関連文化財群とは、日野町内に存在する指定等文化財及び未指定文化財の中でも、共通のテーマを持っている文化財をストーリーとして構成し、一定のまとまりとして捉えたものです。文化財を単体としてだけでなく、まとまりをもって捉えることで、未指定文化財についても構成要素として価値を付与し、相互に結び付いた文化財の多面的な価値・魅力を発見することができると思います。また、日野町の文化財をこうしたストーリーとしてまとめてわかりやすくすることで、地域住民自らが文化財の価値を理解し継承を図るとともに、町内外に価値を発信して文化財を活用したまちづくり、観光振興を進めていきます。

関連文化財群については、前述した日野町の歴史文化の特徴である「たたら製鉄」「城下町黒坂」「出雲街道と宿場町」「長谷部信連と祈り」から以下の4つのストーリーを紡ぎ出しました。また、鳥取県文化財保存活用大綱で示された県内歴史文化のストーリーのうち、日野町に関係する（5）白鳳寺院から大山・三徳山ー知られざる鳥取の仏教文化ー、（8）揚羽蝶の光と影ー鳥取池田家の政治と文化ー、（9）深山を歩き、荒波を越えーとっとり歴史の道を歩くー、（10）変革と伝統ーとっとり近代産業事始めーを基に設定しました。

日野町の関連文化財群

歴史文化の特徴

関連文化財群

たたら製鉄に
関わる歴史文化

1 たたらの里

中国山地特有の花崗岩と豊富な山林から隆盛した製鉄業。近藤家の事業は町の経済・教育・文化の発展にも大きな影響を与えた。

県大綱との関連：(10) 変革と伝統—とっとり近代産業事始め—

城下町黒坂とその形
成に係る歴史文化

2 関一政と福田家の治世 黒坂城下町の暮らし

近世初期の関一政入部と福田家の支配は黒坂を城下町とさせ、現在の町の基礎となるものだった。城下町の面影を今に残している。

県大綱との関連：(8) 揚羽蝶の光と影—鳥取池田家の政治と文化—

出雲街道と宿場町
に関わる歴史文化

3 街道と宿場 往来した天皇・大名・産物

山陰と山陽の中継地として多くの人やモノが往来した日野町。中世の後醍醐天皇通行伝承、近世には出雲街道を松江藩が通行した。根雨、板井原には宿場が置かれました。

県大綱との関連：(9) 深山を歩き、荒波を越え—とっとり歴史の道を歩く—

長谷部信連と祈り
に関わる歴史文化

4 長谷部信連と祈り

古代の仏教受容の様相を知る長楽寺仏像群と町域の多くの寺社の再興や整備を実施した長谷部信連。豪族金持氏が拠点とした地に鎮座する金持神社と、その名を尊んで参拝する現代の祈り。古代から現代に至る普遍的な「祈り」の場としての歴史が垣間見える。

県大綱との関連：(5) 白鳳寺院から大山・三徳山—知られざる鳥取の仏教文化—

関連文化財群1 たたらの里

目標・将来像：たたら文化を活かしたまちづくりの推進

たたら製鉄に関わる未調査分野について調査を実施し、既存の調査と合わせ価値、魅力を磨き上げるとともに、たたら文化を活かした日野町の魅力を発信して観光振興を図る。

関連文化財群ストーリー

日野町内の各地に残る「たたら場」は、伝統的な製法で古代から行われてきた製鉄業の歴史を物語ります。金持の地名の由緒は多量の砂鉄が産出することや、平安後期～鎌倉時代においてそれらを勢力基盤としたという金持氏が伝承しています。

また、製鉄業の技術や習俗等を記載した「鉄山必用記事」は古来の製鉄仕法を知る史料として知られていますが、その草稿とみられる「鉄山諸用記抜粋 鉄山要口譯」を日野町教育委員会が所蔵しています。

近世後期において、技術の発達と鳥取藩の政策により多くの鉄山師が製鉄業に参入し、中でも根雨の近藤家は経営規模が大きく、大阪に出店を持つなど販路拡大に努め、生産した鉄・鋼を全国に供給しました。根雨には、近藤家のたたら経営の本店兼居住地である近藤家住宅が現存しているほか、周辺には日野町公舎（旧出店近藤）、歴史民俗資料館（旧根雨公会堂）、旧山陰合同銀行根雨支店など、近藤家やたたら製鉄に関わる建造物が建ち並びます。なお、日野町公舎と歴史民俗資料館は近藤家が町に寄贈した建造物です。

日野町公舎では伯耆国たたら顕彰会によってたたら楽校が整備され、近藤家やたたら製鉄の概要について学ぶことができます。当館には安来市の人形作家であった青戸鉄太郎氏制作の高殿模型が展示されており、日本に現存する高殿模型では最古のものと考えられています。また、中菅には明治中期に近藤家が経営した都合山たたら跡があり、砂鉄洗場、製鉄炉跡、鍛冶場跡など遺構が良好な状態で残っています。

「たたら経営」には地域住民が炭焼きや砂鉄採取、物資運搬などに多数関わり、農村部の経済を支えました。また、鉄山師にとってもこうした地域住民との関係は欠かせないものでした。近藤家は大正期まで製鉄業を営みましたが、明治期の外国鉄との対抗による技術改良やその精神は、根雨の町の近代化に寄与しました。

このように日野町は、中国山地の豊富な資源を活かして製鉄業が隆んになり、鉄文化に育まれた町でした。ここで作られた鉄は日野にとどまらず、全国に供給されており、製鉄業の隆盛は日野町の特筆すべき産業史といえます。

関連文化財群 1

たたらの里 構成文化財分布 (図中番号は表の番号と共通)



たたらの里 構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	建造物	近藤家住宅	根雨	個人	県指定
2	建造物	日野町公舎 (旧出店近藤)	根雨	町	未指定
3	美術工芸品	高殿模型	根雨	地域団体	未指定
4	建造物	日野町歴史民俗資料館 (旧根雨公会堂)	根雨	町	国登録
5	建造物	旧山陰合同銀行根雨支店	根雨	町	未指定
6	遺跡	都合山たたら跡	中菅	町	県指定
7	美術工芸品	鉄山要口譚	根雨	町	未指定
8	遺跡	ヒヤ谷たたら (舟場山たたら)	舟場	個人	未指定
9	遺跡	大要害	金持	個人	未指定
10	遺跡	小要害	金持	個人	未指定
11	石造物	伝 金持景藤の墓	金持	個人	未指定

構成文化財



①近藤家住宅



②日野町公舎（旧出店近藤）



③高殿模型



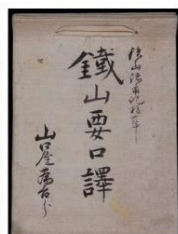
④日野町歴史民俗資料館
（旧根雨公会堂）



⑤旧山陰合同銀行根雨支店



⑥都合山たたら跡



⑦鉄山要口譯



⑧ヒヤ谷たたら（舟場山たたら）



⑨大要害



⑩小要害



⑪ 伝 金持景藤の墓

関連文化財群 1 課題・方針・措置

	保存・活用の課題	保存・活用の方針	No	保存と活用に関する措置	
				事業名	事業概要
目標・将来像…たたら文化を活かしたまちづくりの推進	たたら文化を知る機会が少なく、価値、魅力の発信が不十分	たたら文化に関する講座やイベントの開催	19	研究会・講座・魅力発信イベント開催事業	ふいご祭り等、たたら文化を伝えるイベントの継続。定期的に研究会や講座を開催し、たたら文化について学ぶ機会を創出する。たたら文化の価値や魅力を積極的に発信する。
	ヒヤ谷たたら <small>の所在は知られていないもの</small> の遺構の概要や価値が不明	「ヒヤ谷たたら（舟場山たたら）」の調査	1-1 (再)	ヒヤ谷たたら（舟場山たたら）調査事業	ヒヤ谷たたら（舟場山たたら）について山内構造や経営等を文献や踏査などから明らかにする。
	たたら関係民具が未調査で散逸の懸念	たたら民具の調査	1-2 (再)	たたら関係民具調査事業	たたら関係道具類の所在確認調査を行う。調査内容は講座やたたら <small>の楽校等</small> で紹介する。
目標・将来像…たたら文化を活かしたまちづくりの推進	都合山たたら跡の潜在的な価値の把握、磨き上げが不十分	県指定史跡都合山たたら跡の価値の追究	20	都合山たたら跡調査研究事業	都合山たたら跡のさらなる価値を明らかにする。
	近藤家住宅の将来的な保存方針が未定	近藤家住宅の保存活用計画の作成	21	近藤家住宅保存活用計画作成事業	近藤家住宅の保存活用について関係者と協議し、適切な方策を検討、計画を定めて、次世代への継承と具体的な活用を推進する。
	都合山たたら跡のさらなる活用や魅力を活かした取組みの不足	都合山たたら跡や関係する「たたら街道」や「鉄穴流し跡地」の観光活用推進とアクセスルート <small>の環境整備</small>	22	都合山たたら跡活用事業	都合山たたら跡の活用の推進や利便性向上のため次のような事業を行う。 ・たたら街道に看板を設置 ・鉄穴流し体験施設の設置 ・史跡の原風景維持のための環境整備

	たたら楽校の展示内容が未更新	たたら楽校の運営継続と展示内容の充実化	23	たたら楽校活用推進事業	伯耆国たたら顕彰会と連携し、たたら楽校の運営を持続可能なものとし、展示内容について調査研究結果を紹介するなどより一層の充実化を図る。

◎主体となって取り組む ○協力して取り組む

関連文化財群 1 事業計画期間

実線は継続事業、破線は期間内にて実施予定の事業

	No	事業名	取組主体				実施計画期間			財源
			所有者	地域	民間団体	行政	前期 (R5~7)	中期 (R8~10)	後期 (R11~13)	
たたら の 里	19	研究会・講座・魅力発信イベント開催事業	○	○	◎	◎	←————→			町
	1-1 (再)	ヒヤ谷たたら（舟場山たたら）調査事業	○	○	◎	◎	←-----→			国・県・町
	1-2 (再)	たたら関係民具調査事業	○	○	◎	◎	←-----→			町
	20	都合山たたら跡調査研究事業	○	○	◎	◎	←-----→			国・県・町
	21	近藤家住宅保存活用計画作成事業	○	○	○	◎	←-----→			町
	22	都合山たたら跡活用事業	○	○	◎	◎	←————→			町
	23	たたら楽校活用推進事業	○		◎	○	←————→			町

関連文化財群2 関一政と福田家の治世 黒坂城下町の暮らし

目標・将来像：黒坂城址・陣屋跡の保存と城下町に係る文化財の活用

黒坂城址・陣屋跡の調査と保存、城下町の歴史文化を示す文化財を活用したまちづくりを行う。

関連文化財群ストーリー

黒坂の町の成り立ちは、慶長 15 (1610) 年伊勢から関一政が転封されてきたことにより城下町として町や寺が整備されたことに始まります。その後、鳥取藩として池田家が統治するようになると、黒坂支配は重臣福田氏に任せられ、黒坂は日野の政治の中心地として近世から近代、現代と、その歴史を紡いできました。

黒坂の町を一望し、日野街道を見下ろす山頂には関氏により黒坂城が築城され、土塁や櫓跡などが確認されています。鳥取藩の福田氏統治下においては麓の平坦地に陣屋が置かれて、現在でも石垣や井戸跡などが残ります。明治には同所は日野郡役所が、現在の日野町公民館の場所には昭和 34 (1959) 年まで旧黒坂町役場が置かれるなど、近世以降、当地域の政治の中心地としての歴史を歩んできました。

陣屋跡から近いところには、福田氏 4 代筑後久武、8 代丹波久寧の墳墓があり、黒坂住民より「お墓さん」と親しみを込めて呼ばれています。黒坂の町には関氏と福田氏に関わる社寺として聖神社、藤森神社、稻荷神社、光徳寺、光西寺、泉龍寺があり、眼前の日野川を挟んで中菅には福田氏の祈願所であった瀧山神社が鎮座しています。

江戸後期に作成された史料「黒坂町御城役目札軒口并役目屋敷外住居人別帳」には、地域住民に割り当てられたとされる陣屋の普請や清掃の「役目」、黒坂町の絵図が記載され、江戸後期の町の様子が見える他、陣屋管理に地域住民も参画していたことがわかる興味深い史料です。

また、泉龍寺には、幕末京都の本圀寺事件により幽閉された鳥取藩士 20 名の遺品が残っており、混迷した時代に生きた志士たちに思いを馳せることができます。

関連文化財群 2

関一政と福田家の治世 黒坂城下町の暮らし
構成文化財分布 (図中番号は表の番号と共通)



関一政と福田家の治世 黒坂城下町の暮らし
構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	遺跡	黒坂城址	黒坂	県・町・個人	未指定
2	遺跡	陣屋跡	黒坂	県・町・個人	未指定
3	遺跡	聖神社	黒坂	聖神社	未指定
4	遺跡	藤森神社	黒坂	藤森神社	未指定
5	遺跡	稲荷神社	黒坂	稲荷神社	未指定
6	遺跡	光徳寺	黒坂	光徳寺	未指定
7	遺跡	光西寺	黒坂	光西寺	未指定
8	遺跡	泉龍寺	黒坂	泉龍寺	未指定
9	美術工芸品	因藩二十士遺品	黒坂	泉龍寺	町指定
10	遺跡	瀧山神社	中菅	瀧山神社	未指定
11	美術工芸品	黒坂町御城役目札軒口并役目屋敷外住居人別帳	根雨	町	未指定
12	石造物	福田家墓地	黒坂	光西寺	未指定

構成文化財



①黒坂城址



②陣屋跡



③聖神社



④藤森神社



⑤稲荷神社



⑥光徳寺



⑦光西寺



⑧泉龍寺



⑨因落二十士遺品



⑩瀧山神社



⑪ 黒坂町御城役目札軒口并
役目屋敷外住居人別帳



⑫ 福田家墓地

関連文化財群 2 課題・方針・措置

	保存・活用の課題	保存・活用の方針	No	保存と活用に関する措置	
				事業名	事業概要
目標・将来像…黒坂城址・陣屋跡の保存と城下町に係る文化財の活用	黒坂城址に係る山城の性格や様相について未調査	黒坂城址の構造や価値の把握	1-3 (再)	黒坂城址調査事業	黒坂城址について調査を実施する。地形図や、これまでの踏査による平面図、各種文献も踏まえて、黒坂城築城の過程や、曲輪、全体的な縄張を把握する。
	陣屋跡や福田氏について価値の掘り起こしが不十分	陣屋跡と福田氏の価値や魅力の把握・掘り起こし	1-4 (再)	黒坂陣屋と福田氏に係る調査事業	黒坂陣屋の様相や黒坂支配の歴史を、絵図や各種文献の解読、踏査等から明らかにする。文献の解読は、生涯学習として進め、多くの方の参画を得ながら進めていく。
	黒坂城址・陣屋跡の次世代継承が困難	町指定史跡とすることによる保護措置の強化	4 (再)	黒坂城址・黒坂陣屋跡町指定史跡事業	黒坂城址の調査、陣屋跡・福田氏に係る調査を実施して文化財として価値付けを行い、町文化財保護審議会に諮問して保護措置を図る。
	黒坂城址・陣屋跡、福田家墓地の維持管理に係る人財不足	遺跡の環境整備等に関わる人財の醸成	24	黒坂城址等環境整備事業	黒坂城址・陣屋跡・福田家墓地を黒坂の歴史を物語る文化財として再認識し、環境整備などに関わる人を増やす。
	城下町黒坂の史跡や周辺文化財を活かしたイベントが未開催	価値魅力を共有できるイベントの開催と継続	25	史跡・城下町黒坂を巡るイベント事業	黒坂城址、陣屋跡、福田家墓地、寺社などを巡るまち歩きイベントを開催し、遺跡や町並みの価値を共有する。

◎主体となって取り組む ○協力して取り組む

関連文化財群2 事業計画期間

実線は継続事業、破線は期間内にて実施予定の事業

No	事業名	取組主体				実施計画期間			財源
		所有者	地域	民間団体	行政	前期 (R5~7)	中期 (R8~10)	後期 (R11~13)	
1-3 (再)	黒坂城址調査事業	○	○	◎	◎	←-----→			国・県・町
1-4 (再)	黒坂陣屋と福田氏に係る調査事業	○	○	◎	◎	←-----→			国・県・町
4 (再)	黒坂城址・黒坂陣屋跡町指定史跡事業	○		○	◎			←-----→	町
24	黒坂城址等環境整備事業	○	○	◎	◎	←-----→			町
25	史跡・城下町黒坂を巡るイベント事業	○	○	◎	◎	←-----→			町

関一政と福田家の治世
黒坂城下町の暮らし

関連文化財群3 街道と宿場 往来した天皇・大名・産物

目標・将来像：根雨地区の文化財の活用に係る整備

歴史的建造物が集中する根雨地域の文化財の継承と観光活用を図る。

関連文化財群ストーリー

中世における後醍醐天皇の隠岐配流から再び畿内に戻る道程や、近世初期に整備されて参勤交代開始とともに沿道住民によって維持管理されてきた出雲街道など、根雨や板井原は山陰・山陽、さらには畿内へ上るための交通の中継地としての歴史が随所に見られます。

明地峠は、後醍醐天皇が通行した伝承があり、現在では雲海や棚田が一望できる場所として知られています。近世には根雨や板井原が出雲街道の宿場町として発達しました。出雲街道は山陰から山陽を経て上方や江戸へ向かう幹線道として、松江藩が頻繁に使用しました。根雨には宿場の面影を残す本陣の門が移築されて現存するほか、松江藩本陣に掲げられていた関札が残っています。また、かつて本陣や茶屋を勤めた緒形家は、現在も憩いの場として地域住民に親しまれています。舟場には出雲街道整備や松江藩の休憩所などの役割を果たした佐々木家住宅があります。

こうした人の往来だけでなく地域の産物も運ばれました。たたら製鉄により製錬された日野産鉄や安来産のウナギが畿内へと搬出されていきました。

街道・宿場の発達、人々の往来や移住の契機を生み、多くの生業や産業が起こり、文物が往来しました。大正期には鉄道が開通し、現在の JR 根雨駅、黒坂駅、上菅駅が置かれました。道路網も山陰と山陽を結ぶ3つの国道が縦断する町として在り続けています。

関連文化財群3 街道と宿場 往来した天皇・大名・産物
構成文化財分布（图中番号は表の番号と共通）



街道と宿場 往来した天皇・大名・産物 構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	文化的景観	明地峠からの眺望	門谷	—	未指定
2	建造物	本陣の門	根雨	町	町指定
3	美術工芸品	関札	根雨	町	未指定
4	建造物	佐々木家住宅	舟場	個人	国登録
5	建造物	緒形茶店	根雨	個人	未指定
6	伝統的建造物群	根雨の街並み	根雨	—	未指定
7	伝統的建造物群	板井原の町並み	板井原	—	未指定
8	石造物	板井原道標	板井原	—	未指定

構成文化財



①明地峠からの眺望



②本陣の門



③関札



④佐々木家住宅



⑤緒形茶店



⑥根雨の町並み



⑦板井原の町並み



⑧板井原道標

関連文化財群 3 課題・方針・措置

目標・将来像 .. 根雨地区の文化財の活用に係る整備	保存・活用の課題	保存・活用の方針	No	保存と活用に関する措置	
				事業名	事業概要
	根雨地域文化財建造物等の案内看板整備が不十分	根雨の文化財建造物や場所を案内する看板の更新及び設置	26	根雨宿を巡る看板設置事業	根雨の町に残る宿場に関係する建造物や町並みを構成する建造物の概要を案内する看板をリニューアルする。また未整備のものは新たに設置する。
	宿場町に関わる観光パンフレットなどが未制作	根雨・板井原のパンフレット制作	27	宿場町を巡る観光パンフレット作成事業	根雨の町の文化財建造物の概要や板井原の宿場の歴史や町並みを記載したパンフレットを作成し、宿場町の歴史文化を伝えるとともに観光案内のツールとする。

◎主体となって取り組む ○協力して取り組む

関連文化財群 3 事業計画期間

実線は継続事業、破線は期間内にて実施予定の事業

	No	事業名	取組主体				実施計画期間			財源
			所有者	地域	民間団体	行政	前期 (R5~7)	中期 (R8~10)	後期 (R11~13)	
街道と宿場 往来した天皇・大名・産物	26	根雨宿を巡る看板設置事業	○			◎	←-----→			町
	27	宿場町を巡る観光パンフレット作成事業	○	○	◎	◎	←-----→			町

関連文化財群 4 長谷部信連と祈り

目標・将来像：長谷部信連と長楽寺の魅力・価値の磨き上げと関連文化財群を基にした観光活用

長谷部信連の事績や末裔の活動と長楽寺仏教文化について調査し、魅力、価値を磨き上げる。信連と長楽寺の価値を一体的に発信し、多くの誘客効果のある金持神社と合わせて、関連文化財を基軸とした観光振興を図る。

関連文化財群ストーリー

無病息災や開運などへの祈りや願いは人々の普遍的な活動の一つです。

長楽寺に所蔵されている木造薬師如来及両脇侍像や木造毘沙門天立像、木造不動明王立像はいずれも平安後期の作と伝えられています。長楽寺は源平争乱により焼き討ちに遭いますが、当地に来郡した長谷部信連の活動によって再興されました。

信連は以仁王の臣でしたが治承年間（1177～1180）、平氏によって金持へ配流されました。流人の身ではありましたが、長楽寺再興や延暦寺の建立、さらに賀茂神社、安井神社を建立したと伝えられています。また、信連を追って日野に来た子息實信は厳島神社を建立し、共に来郡した郎党は土着したと伝えられています。その後信連は、源頼朝より安芸国^{はび}検非違使を任じられ、能登国珠洲郡大屋庄（現石川県輪島市）を賜り、子息實信は当地域に留まりました。

流人であった長谷部信連が日野でこれだけの活動ができたのは配流先の豪族金持氏の協力があったのではないかという見方があります。金持氏は、『愚管抄』（鎌倉時代初期）巻第六にみられる「伯耆国守護武士ニテカナモチト云者アリケル」とあるように金持地域に影響力を持っていた一族とされます。なお、この金持という地名は砂鉄が多く産出する地ということに由来している説があります。現代では金持という名は縁起の良い金運などの意味で捉えられるようになり、金持地区の氏神である金持神社はその社名を尊んで全国から参拝客が急増しています。

長楽寺の仏像群と長谷部信連の寺社整備、金持氏と金持神社は、日野町内の古代から現代へ至る「祈り」の変遷と普遍性を物語っています。

関連文化財群4 長谷部信連と祈り 構成文化財分布 (图中番号は表の番号と共通)



長谷部信連と祈り 構成文化財

番号	区分	名称	地区	所有者等	指定等
1	遺跡	長楽寺	下榎	長楽寺	未指定
2	美術工芸品	木造薬師如来像 及両脇侍像	下榎	長楽寺	国指定
3	美術工芸品	木造毘沙門天立像	下榎	長楽寺	国指定
4	美術工芸品	木造不動明王立像	下榎	長楽寺	国指定
5	遺跡	長谷部館跡	下榎	個人	未指定
6	美術工芸品	十二神将像	下榎	長楽寺	町指定
7	遺跡	巖島神社	下榎	巖島神社	未指定

8	遺跡	延暦寺	根雨	延暦寺	未指定
9	遺跡	賀茂神社(本郷)	本郷	宮司・総代・氏子	未指定
10	遺跡	賀茂神社(野田)	野田	宮司・総代・氏子	未指定
11	遺跡	安井神社	津地	宮司・総代・氏子	未指定
12	遺跡	金持神社	金持	宮司・総代・氏子	未指定
13	遺跡	大要害	金持	個人	未指定
14	遺跡	小要害	金持	個人	未指定
15	石造物	伝 金持景藤の墓	金持	個人	未指定

構成文化財



①長楽寺



②木造薬師如来像及両脇侍像



③木造毘沙門天立像 ④木造不動明王立像



⑤長谷部館跡



⑥十二神将像



⑦巖島神社



⑧延暦寺



⑨賀茂神社（本郷）



⑩賀茂神社（野田）



⑪安井神社



⑫金持神社



⑬大要害



⑭小要害



⑮伝 金持景藤の墓

関連文化財群 4 課題・方針・措置

保存・活用の課題	保存・活用の方針	No	保存と活用に関する措置	
			事業名	事業概要
長楽寺・長谷部信連に関わる価値の把握が不十分	長楽寺由緒・仏像群の由来等の再確認と長谷部信連事績や価値・魅力の再認識	1-5 (再)	長楽寺に関わる魅力価値調査事業	長楽寺仏像群の価値、魅力を高めるために、同寺の来歴・由緒を改めて調査する。とくにその関係があると思われる「鵜池原遺跡」を現地踏査や文献、各種資料などで再度確認する。
			長谷部信連に関わる魅力価値調査事業	長谷部信連の人物像や活動、本町にもたらした事績や関連遺構などを調査する。
長楽寺仏像群の防犯体制が不十分	長楽寺仏像群の防犯・管理体制の強化	8-1 (再)	長楽寺仏像群の防犯体制等強化事業	現況の防犯体制を強化するため、その手段・方法について関係者で協議し、方針を定める。また「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等のガイドライン」を参照し、定期的な点検を実施する。
長楽寺・長谷部信連に関わる文化財の一体的活用が不十分	長楽寺、長谷部信連、金持神社等「祈り」の関連性を活かした一体的な活用の推進	28	長楽寺・長谷部信連等の関連文化財一体的活用事業	長楽寺と長谷部信連、金持氏と金持神社など古代の祈りから現代の祈りに関わる文化財をつなぎ、観光素材として一体的な活用を推進する。

目標・将来像・長谷部信連と長楽寺の魅力・価値の磨き上げと関連文化財群を基にした観光活用

◎主体となって取り組む ○協力して取り組む

関連文化財群 4 事業計画期間

実線は継続事業、破線は期間内にて実施予定の事業

	No	事業名	取組主体				実施計画期間			財源
			所有者	地域	民間団体	行政	前期 (R5~7)	中期 (R8~10)	後期 (R11~13)	
長谷部信連と祈り	1-5	長楽寺に関わる魅力価値調査事業	○	○		◎	←-----→			町
	(再)	長谷部信連に関わる魅力価値調査事業	○	○		◎	←-----→			町
	8-1	長楽寺仏像群の防犯体制等強化事業	◎	○		◎	←-----→			町
	(再)									
	28	長楽寺・長谷部信連等の関連文化財一体的活用事業	○	◎		◎		←-----→		町